



横浜市立田奈小学校

平成 30 年 1 2 月 3 日

学校だより

1 2 月

校長 二瓶 光代
TEL 045-981-0009



みのたなくん

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/tana>

価値付ける大切さ

校長 二瓶 光代

ある日の中休み、職員室の中を歩いている女の子の姿が目に入りました。普段、用事は職員室の扉の所で済ませることになっている約束なので、職員室の中に子どもがいるのはとても珍しい光景なのです。その子は、外から続くドアを開けて室内に入ってきたようでした。きっと訳があると思い、声をかけると同じクラスの男の子が、外の階段のところで泣いて動かなくなっているということでした。その場所に向かおうとすると、職員室にずっといた職員が、

「〇先生がすでに対応を始めています。」

と、教えてくれたので、私はとどまりその子からさらに話を聞こうと思いました。

「男の子は、誰かとぶつかったみたいで泣いて動かないの。」

と、何度もその子は話しました。私が、すでに〇先生が行ってくれていることを繰り返し話すと、ようやくその子は落ち着きを取り戻し、一息ついた後、

「私・・・ いいことしたかなあ・・・」

と、つぶやきました。こんなに友達思いの行動を取れたのに、自分に対しては、控えめな受け止め方をしているのです。そこで、

「あなたは、とても、いいことをしましたね。きっと◎さんは、あなたが心配してくれたことをとてもうれしいと思っていますよ。」

と、話しました。女の子は、したことの価値に気付いたのでしょう、

「私、役に立ったんだね。」

と、今度は明るくはっきりとした声で言いました。さらに私は、

「ものすごく役に立ちましたね。友達のために動いたあなたが今度困ったら、きっと友達が助けてくれますよ。」

と、付け加えました。その子は、にっこりして教室に向かっていきました。子どもが夢中になってとった行動の中には、親切や思いやりの気持ちが込められていることがたくさんあります。夢中になるあまり、その素晴らしさに気付いていないこともあるでしょう。そんな時、子どもを取り巻く人々が、その行動がどれほど価値あるものだったかを話すという働きかけをしていくと、子ども達は、いろいろな場面で今以上に自分のよさを実感できるようになっていくと思います。価値付ける言葉をかけることで、一人でも多くの子どもが、さらに自分に自信を持つようになっていくことを願っています。

保健室をのぞくと、動けなくなっていた◎さんは、すっかり元気になっていました。◎さんを心配して、急いで先生を呼びに来た友達がいたことを告げると、◎さんの表情はさらに柔らかなものになりました。